

## 2019 年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	美学美術史学科	氏名	条 和沙
----	---------	----	------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

2019 年度 科学研究費に応募した研究課題「バーリントン・ファイン・アーツ・クラブとジャポニスム—展覧会、交遊、男性性」の目的は、ジェンダー的視座から、紳士階級の日本美術愛好家の社交の場であったバーリントン・ファイン・アーツ・クラブを取り上げ、①クラブ主催の日本美術展、②日本美術を介した会員間の交遊、③男性の社交空間における日本美術受容の実態（ジャポニスムとマスキュリニティ）といった項目を立て、調査検討を行なうことにある。今年度助成を受けた特定研究奨励金により、次年度に向けた基礎資料の収集調査(8月31日～9月11日)をイギリスで実施することができた。

今回の調査でとくに重点を置いたのは、2019 年度科研の基盤テーマとなるバーリントン・ファイン・アーツ・クラブの結成や運営に関わる一次資料を収集することであった。これにより、同クラブがどのくらいの頻度で日本美術展を行っていたのか、会員にはどのような人物が含まれていたのか、同クラブの議事録や会員名簿から抽出し、情報のリスト化を行なうことができた。また、欧米で最初に行われた浮世絵版画の展覧会「日本の木版画と版本の歴史」展(1888年)をはじめ、クラブ主催の展覧会カタログや展覧会の批評記事を大英図書館やナショナル・アート・ライブラリーなどで収集を行なった。

こうした一次資料調査の結果、当初想定していたよりも多くの男性会員が日本美術展の運営に携わっていたこと、美術雑誌に限らず、一般向けの新聞などでも展覧会の批評記事が掲載されていたことが明らかとなった。今年度は基礎資料の収集に重点を置いたため、学術雑誌などでの成果報告には至らなかったが、次年度には作品調査にも着手し、より本格的な分析を行ないたい。

